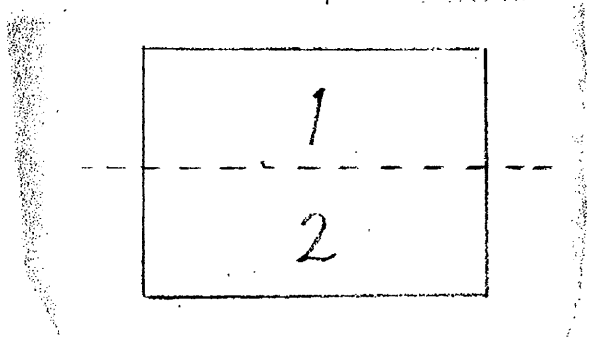


分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 68年 6月18日 主務者又は 撮影立会者 金沢悦夫 (印)	

199

198

軍機

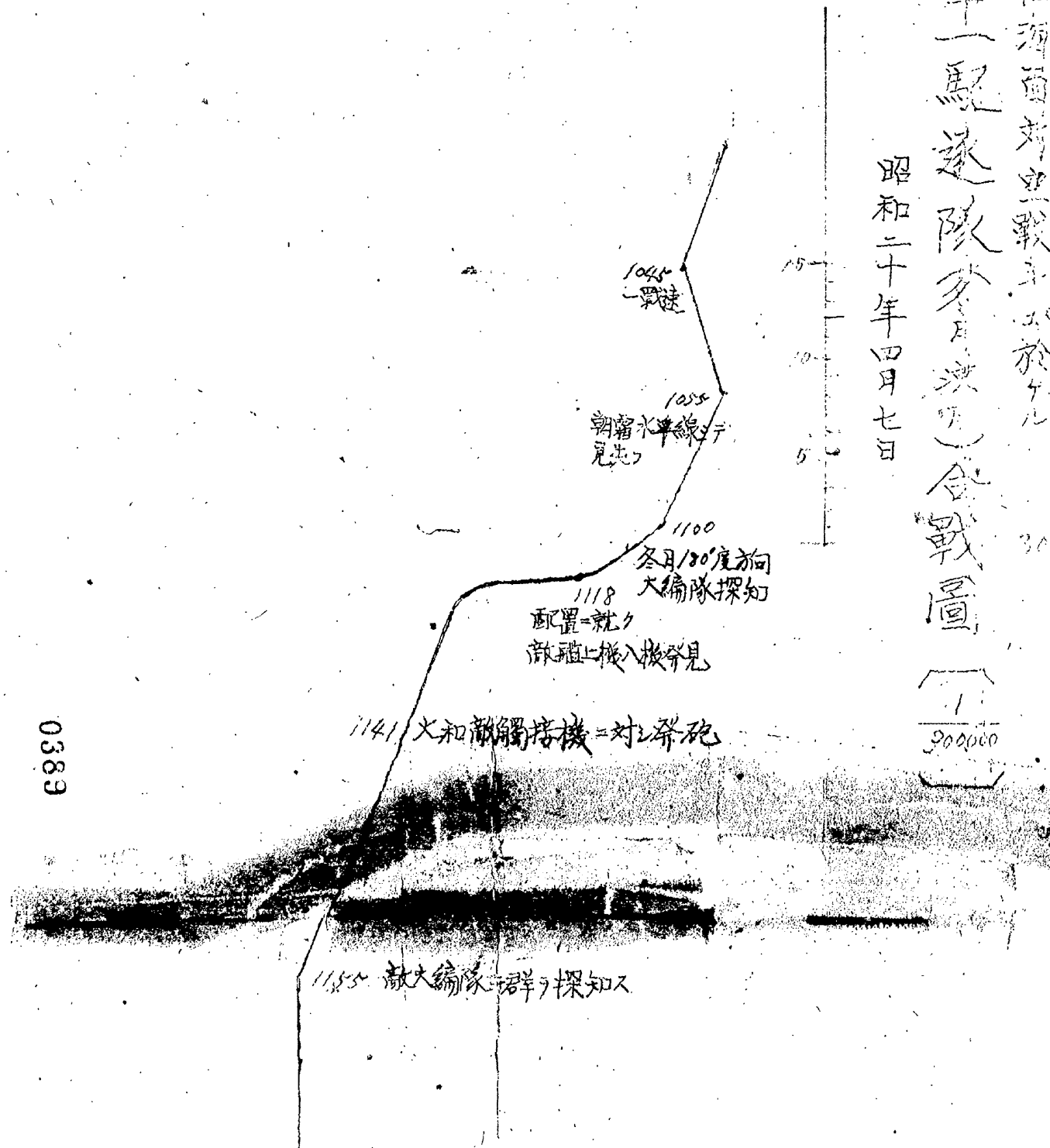
別圖

九州方面海面航空戦事ニ於ケル

第四十駆逐隊(空母)令戦圖

昭和二十年四月七日

0383



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

1680

200

199

第四令達報止口等

月日時發宛通報時

令達報告等

種別

P
Gf

一八一三

三月十七日

PP
Gf P
GEBP
各領隊

六艦軍司令官

大臣 總長

防衛總軍

支那派遣軍

威

Gf 電令作第五六四號

諸情報ヲ綜合スニ敵近ク南西諸島方

面ニ上陸ヲ企図シツアル算大ナリ

ニ敵攻略部隊南西諸島方面ニ未攻セバ

陸軍部隊ト緊密協力Gfノ全カヲ與テ

之ヲ擊滅南西諸島ヲ確保セントス

三、作戦要領

一、航空作戦

(一) KfB 九州方面ニ展開九州方面敵機動

部隊ヲ捕捉撃滅

(二) 5師ハ台湾ニ展開遊撃部隊敵機動

電

無

部隊
 三 隨伴スル空母群ヲ捕捉撃滅
 三 各航空隊ハ概ネ沖縄本島(ヲ含む)
 以北、南西諸島及九州方面ニ展開主トシテ
 敵輸送船團ヲ捕捉撃滅尚爲シ得
 ル限リ一部ヲ以テ敵空母撃滅ニ協カス
 (第三項發令時機ヲ三月二日零時トス)
 (四) KGB 可動全力(実用機)ノ本土西方
 轉進ヲ準備ス
 右轉進ハ本職之ヲ特令轉進兵カハ令
 ナシテ KGB 指揮官作戰指揮下ニ入ル
 (五) GEB 指揮官指揮下作戰指揮ヲ含む航空
 兵カハ本土西方集中ヲ準備シ、現任務
 ヲ續行令ニ依リ所定兵力ヲ KGB 指揮官ノ

月日時發	年月日通報時	令達 報告 等
		作戰指揮下に入レ作戰セム (六) 哨戒ハ特令ニモノ外各指揮官所定 (四) 潜水艦作戰 (一) EBノ大部ハ協力攻撃準備ヲ促進令ニ依リ九州南東海面ニ出撃シ主トシテ敵後動部隊ヲ捕捉攻撃ス (二) EB一部(四)天塔載可能モノ(四)天塔載攻撃準備ヲ促進令ニ依リ南西諸島進海出撃シ伏勢シ敵攻略部隊ヲ及撃ス (ハ) 局地守備部隊ノ作戰 (一) 航空基地ヲ整備航空兵力ヲ進出備フ (二) 敵来攻セバ海上特攻兵力ヲ以テ敵攻略

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

202

201

三月二十七日 口 IYB	三月二十六日 口 IYB	三月二十日 口 IYB	月日時分 宛月日 宛通 報時
IYB	IYB	IYB	令達報告等
機密第一遊撃部隊命令作第一號 第一遊撃部隊天一號作戰要領 (省略)	機密第二法令第九號 第一遊撃部隊戰策 (省略)	機密第一遊撃部隊命令第八號 第一遊撃部隊電波哨戒準則 (別紙第一)	
書類	書類	書類	標

9680

203

202

月日時發	四月三日 二六四八 口 1KFGB
宛(通)報時	1KFGB 天機作 戰命令 着信艦所
令達報告等	1KFGB 天信電令作第三九號 一、當部隊ハ沖繩方面ハ戰勢ニ鑑ミ×日五日ノ豫定ヲ期シ可動兵カ大部ヲ與テ晝夜ニ亘リ敵攻略部隊ニ對シ連續攻撃ヲ加ス其攻略企圖ヲ破挫セントス 二、×日ノ作戰要領ヲ左記ノ通り予定詳細ハ別令 三、陸爆夜戰隊ヲ以テ泊地附近ノ敵部隊ヲ空襲 四、晝間摩下戰闘機隊ノ大部ヲ與テ波狀的ニ進攻シ敵邀撃ヲ一方ニ牽制制圧スト共ニ偵察機ヲ以テ電探擬購
種別	電 無

一 實施好機特攻兵力(8機)主カトテ波
 狀的ニ推進主トシテ敵輸送船団突入
 二 一日夜間80%陸攻一部ヲ以テ泊地附
 近ニ機雷ヲ敷設
 三 右作戰中全貌偵察ニ依リ空母群ヲ發
 見セバ特攻兵力ニ依リ之ヲ猛攻車滅
 四 同作戰中夜戰攻襲隊ハ當部隊信電
 令作第ニ三號ノ攻敵手ヲ續行ス
 五 本作戰ヲ菊水一號作戰と呼稱ス
 卅電令作第六〇一號
 一 敵ハ既ニ沖繩島北及中飛行場地区
 二 約三ヶ師団ヲ揚陸後續部隊揚陸
 ヲ續行中ナリ

8630

204

203

月日時發	月日時	令達報告等	種別
四月四日 〇九一八 日	天(第一聯作戰) 部隊 大海參一部 第十六方面軍 第三飛行軍 第八師團	二師ハ好機ニ乗ズル敵KAB及攻略部隊ニ對スル 攻撃ヲ續行スベシ ×日(五日ノ予定)ヲ期シ航空攻撃ヲ沖繩 泊地ニ指向敵増援攻略船団(支援空母及 戰艦等ヲ含ム)ヲ覆滅スルト共ニ併セテ 敵KABヲ捕提撃滅セントス 三航空部隊ハ依リ作戰スベシ (1)KAB(作戰指揮下KABヲ含ム)及6HA(密ニ協 同適時機動制空ヲ持續シツ、右間隙 ニ乘ズル波狀攻惠ヲ敵攻略船団ニ指向 ス)ハ本攻撃ノ期間別ニ有力ナル一部 兵力以テ敵KABノ策動ニ備ヘ好機	電 無

6680

204'

四月五日 三月九日 GF	四月四日 三月二日 GF	
IYB	天二號作 戦部隊	
GF電令作第六〇三號 IYB(大和28d(矢矧及α6))ハ海上特攻トシテ八日 黎明洋繩島ニ突入ヲ目途トシ急心速出虫 準備ヲ完成スベシ	六日ニ改ム GF電令作第六〇三號中「X日ノ豫定ヲ無 電	之ヲ捕捉撃滅 回船ハ右攻撃ヲ策應シ敵攻路船団ニ側 方攻撃ヲ敢行但シ戦況?好機ヲ捕 捉セバ敵機動部隊ニ攻撃ヲ敢行スルモ 以御作戦指揮下ノ航空兵力ハ右攻撃手 ニ策應シ機宜敵攻路船団ニ攻撃手 ヲ敢行戦果ヲ擴充ニ努カム
電無	電無	

0050

205

月日時發	四月五日 二四〇三	四月五日 二四〇三	四月五日 二四〇三	四月五日 二四〇三
GF	GF	GF	GF	GF
第一方面軍 (剛) 參謀 △ 250 △ 315	第一方面軍 (剛) 參謀 △ 250 △ 315	第一方面軍 (剛) 參謀 △ 250 △ 315	第一方面軍 (剛) 參謀 △ 250 △ 315	第一方面軍 (剛) 參謀 △ 250 △ 315
令達報告等	令達報告等	令達報告等	令達報告等	令達報告等
GF 司令第六〇五號 IYB 指揮官ハ 315ノ 驅逐艦四隻ヲ以テ掃蕩隊 ヲ編制九州南方海面迄海上特攻隊 對潛對空警戒ニ任ゼシムコシ	GF 司令第六〇五號 IYB 指揮官ハ 315ノ 驅逐艦四隻ヲ以テ掃蕩隊 ヲ編制九州南方海面迄海上特攻隊 對潛對空警戒ニ任ゼシムコシ	GF 司令第六〇五號 IYB 指揮官ハ 315ノ 驅逐艦四隻ヲ以テ掃蕩隊 ヲ編制九州南方海面迄海上特攻隊 對潛對空警戒ニ任ゼシムコシ	GF 司令第六〇五號 IYB 指揮官ハ 315ノ 驅逐艦四隻ヲ以テ掃蕩隊 ヲ編制九州南方海面迄海上特攻隊 對潛對空警戒ニ任ゼシムコシ	GF 司令第六〇五號 IYB 指揮官ハ 315ノ 驅逐艦四隻ヲ以テ掃蕩隊 ヲ編制九州南方海面迄海上特攻隊 對潛對空警戒ニ任ゼシムコシ
左ニ依リ至急燃料ヲ移載セヨ 花月ヨリ大和ハ六百噸損壊ヨリ大和名三百噸 損壊ハ 1700ニ横付補給ノコトニ改ム 1700各艦 ハ滿載スベシ	左ニ依リ至急燃料ヲ移載セヨ 花月ヨリ大和ハ六百噸損壊ヨリ大和名三百噸 損壊ハ 1700ニ横付補給ノコトニ改ム 1700各艦 ハ滿載スベシ	左ニ依リ至急燃料ヲ移載セヨ 花月ヨリ大和ハ六百噸損壊ヨリ大和名三百噸 損壊ハ 1700ニ横付補給ノコトニ改ム 1700各艦 ハ滿載スベシ	左ニ依リ至急燃料ヲ移載セヨ 花月ヨリ大和ハ六百噸損壊ヨリ大和名三百噸 損壊ハ 1700ニ横付補給ノコトニ改ム 1700各艦 ハ滿載スベシ	左ニ依リ至急燃料ヲ移載セヨ 花月ヨリ大和ハ六百噸損壊ヨリ大和名三百噸 損壊ハ 1700ニ横付補給ノコトニ改ム 1700各艦 ハ滿載スベシ
朝霜ハ霞横付補給終ツテ大和ニ初霜ハ矢矧 ニ横付補給スベシ補給量霞滿載矢矧 三百噸	朝霜ハ霞横付補給終ツテ大和ニ初霜ハ矢矧 ニ横付補給スベシ補給量霞滿載矢矧 三百噸	朝霜ハ霞横付補給終ツテ大和ニ初霜ハ矢矧 ニ横付補給スベシ補給量霞滿載矢矧 三百噸	朝霜ハ霞横付補給終ツテ大和ニ初霜ハ矢矧 ニ横付補給スベシ補給量霞滿載矢矧 三百噸	朝霜ハ霞横付補給終ツテ大和ニ初霜ハ矢矧 ニ横付補給スベシ補給量霞滿載矢矧 三百噸
號	號	號	號	號

四月五日 一五〇〇 P GF	四月五日 一五〇〇 P 2F	四月五日 一五〇〇 P 2F
天部作 戦部隊 大海一部 沖特根 高 第十方面軍 第三軍 第八師團	朝霜初霜 榎樞 花月 矢野	(工)
GF電令作第六〇七號 帝國海軍部隊及六航軍ハ又且吾以 降)全カラ與テ沖繩周辺敵艦船ヲ 攻撃手較手滅セントス 陸軍飛行第八師團ハ右ニ協力攻撃手 ヲ実施ス	朝霜初霜榎樞ハ他艦へ重油移載 後徳山ニテ滿載後合同スベシ	當隊(3)朝霜初霜欠)八日黎明沖繩島 ニ突入シテ定各隊艦ハ出撃準備ヲ完成 スシテ不要物作機密書類等ハ必要ノ最 少限ヲ残シ殘留艦ニ移載スベシ
	信 號	信 號

0402

206

月日時	月日時	月日時	月日時
四月五日	四月五日	四月五日	四月五日
2F	2F	2F	2F
天號作戦	天號作戦	天號作戦	天號作戦
YB東通	YB東通	YB東通	YB東通
令達報告等	令達報告等	令達報告等	令達報告等
第三軍六七日ヨリ總攻撃ヲ開始敵上陸部隊ノ掃滅ヲ企図ス	海上特攻隊ハ一日黎明時豊後水道出撃ヨリ日黎明時沖繩西方海面ニ突入敵水上艦艇並ニ輸送船團ヲ攻撃撃滅スベシヨリ日五八トス	花月ハ奥雷二本宛至急各艦ニ供給スベシ大和ヲ大發ニ隻使用	大和及2nd各艦ハ各艦ヨリ不足彈藥ヲ補填シ置カレ度
GP電令作第六〇一號ノ×日ヲ	GP電令作第六〇一號	GP電令作第六〇一號	GP電令作第六〇一號
無	無	無	無
電	電	電	電

四月六日 〇四三一 P 沖根	四月五日 二二〇三 2F 参謀長	
2F 参謀長 P 佐鎮	P 沖根 P GEB	高通沖根P
貴機密第〇五二〇三番電返 連絡電波七四六〇KC(三七三〇KC) 使用暗號書表(アオ一四アテ六テニケ六) トス尚四六三KCヲ待受サレ度	六日、トス 當艦隊ハ八日黎明沖繩島ニ定入ノ 予定ナル處七日二〇〇ヨリ直接貴隊ト連絡 致度 使用電波暗號書至急知ラサレ度 尚佐鎮部隊通信(系七四六〇KC)終始待 受シアリ沖繩島附近敵情(特ニ西方海 面水上艦艇、動靜)但シ電波輻射防 衛上了解出サザル事アリ念、爲	六日、トス
電 無	電 無	電

0404

207

206

月日時發	電報時	令達報告等	種別
四月六日 〇七五一	四月六日 〇九五六	GF 電令作第六一號 GF 電令作第六〇三號 一號ニ依ル YB 兵力ヲ 大和 25d (矢矧及駆逐艦八隻又)ニ改ム 二海上特攻隊豊後水道出撃時機ヲ YB 指揮官所定トス	無
四月六日 〇三六	GF 參謀長 EB YB P 25d	海上特攻(矢矧及矢矧 08 (月型二隻機風型三隻 若葉型三隻) Y2 日夕刻豊後水道出撃ヲ 列島線西側ヲ經テ極内密ニ沖繩 島ニ突入ス味方識別ニ留意アリ度 Y 日ハ八日ノ予定	無
貴機密第〇五ニミツ三番電 用電波	貴機密第〇五ニミツ三番電 用電波	貴機密第〇五ニミツ三番電 用電波	無

0403

2071

四月六日 二〇一 P GEB	951fg 参謀
佐領各戸 5A市各戸 951fg P 2F	佐領各戸 P GEB
貴機密第〇五ニ〇三番電返 索敵機及對潜直衛機共使用電波左ノ通り 佐領部隊航空機六三四〇KC(エィニ七一) 三二七〇KC(エィ一七一) 佐伯航空隊六三二五KC(クレ三七)	晝間(八〇ヨリ一八〇迄)六三四〇KC(エィニ七一) 夜間三二七〇KC(エィ一七一)
電 無	電

9040

208

207

月日時發	四月六日 一三〇五	口 IYB.	軍司令部總長 佐吳鎮口 口 GEB 口 IAF 口 SAF 口 6F 口 8PP 口 3AF 口 IEF 沖根 吳防戦口 九五一空	月日時	令達報告等	種別
					第一遊撃部隊行動予定 六月一八〇豊後水道東水道出撃手 二三〇都井岬ノ六六度一二理 七日〇三〇佐多岬 一〇〇〇三一度一二分ノ二八度一五分E 二〇三〇二八度二二分ノ二六度四一分E 八日〇四〇〇沖繩島西方海面着	無
					海上特攻隊ノ行動ニ関聯彼我ノ艦艇混淆 錯綜ヲ豫期サル所我々飛行機ハ味方艦艇 ニ接近セザル如ク注意セラルト共ニ右特攻隊 ノ兵力行動及艦型ノ特徴等ヲ全搭乗員	電

四月六日
一三八
GF

天(號作)
戰部隊
大(海參)
高(通)
口(飛)
飛師

ニ教示徹底セシメ味方識別ニ関シ遺憾ナキ
様期セラレ度

ニ艦艇ノ側方識別ニ當リテハ先ズ檣樓及煙突
ニ着眼スルモノトシ識別要矣左ノ通り

(艦型名隻数特徴順トシニ重粘弌内ハ其ノ
類似艦ノ特徴ヲ示ス)

①大和 檣樓太ク艦中央稍後方ニ傾斜シ屹立

〔細ク直立〕煙突一本ニシテ檣樓トノ間隔大

②矢矧 略扁平ナル甲板ニ檣樓及一本

煙突(艦中央ニシテ前者ヨリ低シ)ニレテ屹立

〔英巡〕レアリ型(兩者同)

③秋月型ニ隻

極メ太ク後方ニ偏曲セル獨特ノ一本煙穴大

8050
209

208

四月六日 一八二四	四月六日 一五一九 25 参謀	
指宿空基地 大村空基地	25 佐良各通	
951 電令依茅一四號 一 11B 行動予定同部隊機密番号六三三五番 電通 二 佐佐保本隊ハ零水一直ニ機ヲ以テ六〇リ	當艦隊六日ニ〇〇〇以後是通信系ヲ去ル	ニシテ変化ヲ前方ニ偏在ス(艦首ヨリ全長 約13) (煙突細高ク仰曲セズ) ニ夕雲型六隻 艦橋前面砲塔一基コシテ切立(砲塔ニ段 トナリ艦橋前面傾斜シテ見ユ二本煙突ハ 一番煙突ノ極メテ太ク艦橋ト間隔大 (二本共細長艦橋トノ間隔小)
無	電 無	無

0409

209

951fg

戸	戸
GEB	2F
戸	戸
5AF	佐鎮

ヨリニ道路直衛ヲ実施ス
三指宿派遺隊ハ「哨区哨戒ニ任ズル外
之ガ前路掃蕩並ニ直衛ヲ実施スル
四、大村派遺隊ハ「ヨリニハ三道路直
一機ヲ以テ之ガ直衛ヲ実施スル

210 0150

209

月日時発 四月 三月 五日	矢 三 四 七日	矢 三 三 七日	矢 三 三 七日	矢 三 三 七日
2F	2F	2F	2F	2F
初霜	2F	2F	2F	2F
左、電送信セヨ 死天一號作戦部隊戦斗速報第一號 四月七日艦攻艦爆二〇〇機以上ト交戦矢矧 奥密二本命中航行不能大和奥密爆 弾命中驅逐艦涼月雪風以外全部沈 没又ハ大破	機械部全部被弾航行不能	機械室被弾航行不能	一〇〇文	令達報告等
信	電無	電無	電無	電無

一七 三〇日 涼月	一七 二〇日 初霜	一五 〇七日 17dg	一四 一七日 初霜
口 佐鎮 冬月	口 各艦	口 5AF	天一號 作戰部隊
二戰果 三被害	一三四五ヨリ男女群島ノ南ハ〇哩ニ於テ数 次ニ日リ敵大編隊ト交戦	磯風機械室浸水出シ得ル最大速力一ニ節 電氣関係全部破損傾斜一五度次々 ニ増大シ、アリ一先ズ北方ニ避退ス	大和更ニ雷撃ヲ受ケ誘爆瞬時ニシテ沈没 セリ
四一二號正使用不能	司令官救助セリ	電	電
（イ）艦橋ヨリ前部大破目下消失中	信	無	無

211 0412 210

初霜 一九四七年七月	冬月 一九四五年七月	初霜 一九三四年七月	
冬月	初霜	冬月	
一、冬月損傷狀況轉輪四箇針儀破壞主	涼月ヲ護衛シ至る心佐世保ニ回航	見エズ 涼月見ユルヤ	四、進路概ネ北東後進原速ニテ佐世保 二、向ヲ予定 五、視界内磯風ハ片舷ニ停速航行可能 ナルモ傾斜大ナル爲目下停止 應急處置中
		電報	

211

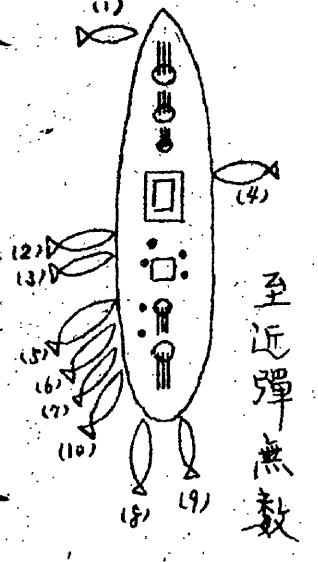
✓ 二三四五 4/dg	✓ 二三四五 4/dg
△ 涼月 2sd	△ 2sd P 佐 佐 佐 病 工 敵 院 廠 長 長 長 長 参 謀 長
一、貴機密第〇七三番電 未自 付至急ニ再送セヨ 二、現在ノ位置針路速力知ラセ	砲配電盤破壊意欲所使用不能其 爆弾機銃ニ依ル小破口多数 二枚助収容員数約六〇名(大和天智殿) 内入院ヲ要スルモノ三〇名(冬月ヲ含ム) 三、冬月明八日〇六〇〇入港ノ予定入港 後直チニ収容人員受取入院方手配 ヲ得度 電

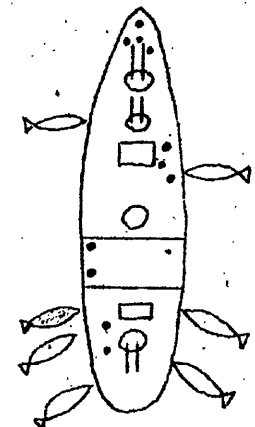
一 戦果

第五 戦果及被害

二 被害

(一) 敵機撃墜機数 確認セルモノ一九機(沈没艦分ヲ含マズ)
 (四) 海上特攻隊、敵機動部隊艦上機吸収ヨリ反軍航空部隊
 攻撃成功シ之ガ戦果發揚ニ資セリ

艦名	被害	記事
大和 2万司令部 ヲ含ム	一 被弾及被害情况  至近弾無数 二 船体一面沈没	第三艦隊司令長官 伊藤整一海軍中將戦死

41d8 冬月	2sd 司令部 ヲ含ム	矢 矧
一ロケット弾 二命中 (音彈) (一) 主砲發令所轉輪中破 (二) 一缶室内侵入海水管破損	 二船体 七四〇五沈没 三戦死 四四六名 (内准士官以上三八名) 戦傷 一三三名 (内准士官以上九名)	三戦死 生存者 五名 (外全員戦死) 戦傷 一七名 (内准士官以上四名) 一被弾 及被雷情况
修理二週間ヲ要シ 四月三十日以後全カ發揮 二支障ナシ		

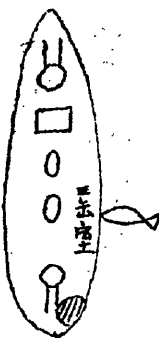
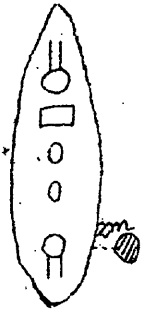
9170

213

41 d 8

涼	月
爆弾(二五班)直垂一 一ニ番砲搭大破火炎七番ビム 以前大部分浸水 回後部右舷至近弾ヨリ若干 浸水 二被弾一情況	三戦死 二名(内准士官以上一名) 戦傷 一二名(内准士官以上二名)
三戦死 五七名(内准士官以上一名) 戦傷 三四名	三後進強速黒ニ〇(実速推定節) 三テテ立保ニ間航セリ 三修理ニ約三月ヲ要ス



風 浪	風 磯
一 直連一彈ヨリ航行不能 被雷一三七二四八船体切断沈没 二 被彈及被雷情況地点 (三三度四七分北 一三度八分東) 	一 至近彈ヨリ機艙室満水航行不能 二 被彈ノ情況 三 戦死 二名 (内戦傷死三名ヲ含ム) 戦傷 五四名 (内准士官以上一名) 
	雪風ヲ人員形載ノ上 七日二四。砲臺處分 地点 (三三度四六五分北 一三度九二分東)

2 / dg

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.iacar.go.jp/>

6170

215

初霜	
被害ナシ	三戦死 七名(内准士官以上一名) 戦傷 聖名(一) 名
戦傷 三名外	

217

0420

216

21

21

第七 功績
豫定作戰ヲ實施スルニ至ラザリシモ全軍結束海上特攻隊
トシテ敵艦上機群ヲ吸收邀撃其ノ九機以上ヲ撃
墜數十機ヲ壊破セル外間接的ニ味方航空特攻ヲ推進
シテ其ノ戰果ヲ擴大セシム等全般作戰ニ寄與セリ

第六 我カ兵力ノ現状
冬月 四月二十日以後 全力發揮可能
涼月 五月五日以降保安破泊可能
雪風 徹底修理ニ約三ヶ月ヲ要ス
初霜 四月十五日以後 全力發揮可能
全力發揮可能

第廿八戰訓

一用兵一般

(一)制空権ヲ有セザル艦隊ノ脆弱ナルハ既ニコレト沖海戰以來幾度カノ戰
闘ニ於テ實證セラレタル處ナリ故ニ此レガ使用ニ當リテハ特ニ右ノ要ス

慮スルヲ要ス

(二)完全ナル制空権ヲ確保シ得ザル^{場合}雖モ突入迄強力ナル直衛機ヲ附シ
勢力ノ保存ヲ期ス

(三)極力天象ヲ利用ス

(四)航空作戰乃至輸送作戰ノ牽制ニ使用ス

之ヲ要スルニ作戰ハ飽ク迄冷靜ニシテ打算的ナルヲ要ス徒ニ特攻隊ノ

美名ヲ冠シテ強引ナル突入戰ヲ行フハ失フ處大ニシテ得ル處甚ダ

少シ

(五)作戰準備(整備ト訓練ト)作戰方針ハ合致セシムルヲ要ス

12421

217

218

昨ノ水上艦艇ノ使用方針ト中央ノ艦艇整備方針並ニ配員合致セザリシ爲今又突入作戰ニ於テハ整備不充分ナリシノミナラズ訓練モ殆ド實施スルコトナク出撃スルノ已ムナキニ至レリ

即チ水雷戰隊ノ工事ハ緩急順序第五位ト定メラレアリ工事進捗セズ配員モ訓練ヲ積ミタル者ハ交代シ驅逐艦砲術長ニシテ射撃ヲ實施セザル者數名アリシ情況ナリ

艦隊トシテハ低速力ニテ對雷撃及爆撃回避運動ヲ實施セル外三田ノ戰務回演ヲ實施セルニ過ギズ

い 突入作戰等極度ノ機密ヲ要スル作戰ニ於テハ豫メ計畫準備ヲ完成シ電報一本ニテ即應シ得ル對勢ニアルヲ要ス

天一號作戰ニ於テハ突入戰ハ實施セラレザル方針ナル處突然之が實施ヲ下令セラレタル爲燃料搭載出撃準備警戒要領等ニ関シ電報量ヲ激増シ我が企圖ヲ察知セラレタリト認めラルルニ失

多シ

特攻部隊使用當リテ如何ニ死ニ至ル作戰ヲリテモ目的ハ遂ニ道程ニ於テ最モ合理的ニシテ且自主的ナル如ク細密ナル計畫ヲ極力成算アル作戰ヲ實施スル要アリ思ヒ附的戰或ハ政略的作戰ニ墮シ貴重ナル作戰部隊ヲ死セシメサルコト特ニ肝要ナリ

作戰實施當リテ協同作戰上適當ナル規制アル當然ナルベキモ各部隊ノ實情ヲ考ヘ其ノ達成スベキ目的ヲ明示シ實施當リテ敵情並ニ天象地象等ノ狀況ニ應ジ相當採量ノ餘地アラシムル要アリ

今次海上特攻部隊ノ作戰目的ガ航空攻撃ヲ容易ナラシムルモノナルヤ航空部隊ノ士氣昂揚ヲ為スルヤ或ハ三十三軍ノ總攻撃ヲ策應スルヲ為ナルヤ明確ナラザリシ點アリシ為行動決定上判斷ニ迷ヒタリ

0424 219 220

11

(一) 將來水上部隊ヲ特攻部隊トシテ使用スルニ於テハ隊メ其ノ使用方針ヲ明示シ計畫準備ヲ進メ訓練シ置クヲ要ス

(二) 航空部隊ト水上部隊又要地防備部隊トハ更ニ緊密ナル連絡ヲ採ル必要アリ

(三) 大隅海峡西方海面ニ於テ味方輸送部隊(大島ヨリ歸還中)ヲ敵部隊ト誤リタルコトアリ

(四) 喜界島ヨリ敵艦上機百機以上北上ストノ情報艦隊ニ入手達レタ

二 敵ノ戦法

(一) 今回ノ敵機ハ明ラカニ艦隊ヲ目標トシテ雷爆併用特ニ雷撃機ヲ多数使用セリ、先ヅ急降下爆撃ヲ以テ我對空火器ヲ制壓シタル後雷撃機ヲ

時ニ來襲セリ

(二) 艦上機群ハ先ヅ艦隊確認後視界外ニ去リ包圍對勢ヲ整ハ機ヲ見テ

同時ニ殺到セリ

ハロケット彈ヲ併用セリ 冬月ニ二彈命中セリ(盲彈)

(二)我が射彈ヲ受ケレバ照準不良ナルモノ多シ

(三)敵機ノ防彈は消火装置ハ更ニ完全トナルモノ如シ

(四)雷撃機運動ハ巧妙ニシテ雷撃ノ技倆ハ従前ニ比シ進歩セルモト認ム

(五)雷撃射点ハ三〇〇米乃至一〇〇〇米ナリ雷速ハ三〇節附近ト推定ス

三 砲術

(一)ニ水戦各艦ハ環型照準器ニ換装後間モナク照準訓練不足ノ儘ニ出撃セリ

対勢観測等ハ真ニ至難ナルヲ以テ常任坐臥訓練ニ精進シテ

消煙彈雨ノ中ニ於テモ尚照準ヲ誤ラザル域ニ達スルヲ要ス

(二)二十五糎機銃ノ彈丸ノ威力ハ少キガ如シ信管改造方早糎機銃等ニ換装ス要ス

今次戦斗ニ於テ明ニ命中彈ヲ確認セルモ撃墜シ得ザルヲ嘆カリキ

(三)防空陣ハ輪型陣ヲ以テ理想トス一回ノ対空戦中ハ敵機ヲ離脱ナリ

又警戒艦ヨリ掩護射撃ハ効果少シ一部所見アルモ
 今回涼月ハ大和ノ掩護射撃ニ於テ機銃ヨリ一機主砲ヨリ
 一機ヲ撃隊セリ

(二) 電探ヨリ射撃可能ナル如ク速ニ兵器改善ノ要アリ
 理由

(一) 今次戦斗ニ於テハ雲低ク敵機發見遲レ射撃時間少ク
 砲力ノ發揮アル分ナラザリキ

(二) 現在ノ測巨儀ハ測手精神的影响大ナリ即チ精神的
 誤差ヲ零ナラシム爲メ最科學的ナル電測兵器ヨリ射撃手
 ヲ實施セザルベカラズ

(三) 機銃群力至小隊毎ニ主砲ノ藥莢ヲ吊下ゲテ打方始メハ笛
 打方セメハ藥莢ヲ叩キタル處指揮上極メテ有効ナリキ
 (ハ) 今次戦斗ノ際煙幕ヲ展張セバ或ハ有効ナリシニ非ズヤト

思考ス研究ノ要アリ

(1) 矢矧型主砲ニ於テ多數機ト交戦ヲ予期スル時ハ予メ火シオクヲ可トス

(2) 矢矧型ハ砲術長ガ高射長ヲヤルヲ可トス

(3) 初霜ニ於テ指揮所中継所間連絡用ランプヲ假設セル所指揮上有効ナリキ

四通信

(1) 作戦上相策應スベキ各部隊間通信ハ最緊密ナラシムルヲ要ス而シテ策應部隊ニ水上部隊ヲ含ム場合特ニ然リ之ガ爲左ノ諸項留意ノ要アリ

(2) 水上部隊發信専用通信系ヲ一設特定スルヲ可トス

(3) 今次通信計画

(A) F IYB ↓ R IKFQB 第六特定通信系、第三基地通信系

甲種艦船一般短波

(B) 其他一般通信ハ艦所通信系若クハ共用艦船短波及

甲種艦船一般短波(状況ニテ甲種艦船旗艦短波併用)

ナリシトコ送信艦駆逐艦トナル戦後半ニ於テ發信

寛報ノ遅達不達通達不如意等ハ各艦ノ具體驗

セルトコロナリ

(2) 専用通信電波策定場合左ノ着意ヲ要ス

(A) 対謀防衛(妨信回避)上常用電波ト異ナラシムルヲ可トス

(B) 電波精度保持上水晶片アル電波ヲ選ブラ可トス

(C) 電波通達状況良好ナル電波ヲ選ブラ可トス

(3) 専用通信系錯綜セル場合ニテ應急対策トシテ他ノ予備

通信系ニ依ル如ク豫メ其ノ順序等モ通信計画指示

シアルヲ可トス

- (4) 水上部隊の内容駆逐艦以下、小艦艇トナリ通信施設並ニ
練度充分ナル現状ニ於テ簡明確實ナル通信計画ノ
策定ト重點明示ハ絶対必要ナリ
- (二) 通信、速達、水上部隊、本質ヲ理解セ、陸上部隊及通信
機關積極的全幅協力ニ俟ツ
- (1) 航空戦ヲ主体トシテ作戰ニ於テ水上部隊ハ敵ノ航空攻撃
ニ對シ陸上ト本質的ニ其強度ヲ異ニシ進退度ニ合スヤ
否ヤ一ニ情報通達一瞬ノ速速ニ因スルコトアリ
- 通信力ノ脆弱ナル亦陸上機關ノ比ニアラス
- (2) 陸上通信機關ハ前項水上部隊通信ノ待受ニ最優秀
員ヲ配ス
- (3) 水上部隊、進退ト密切ナル關係ヲ有スル作戰命令等陸上
部隊ニ於テ信魔令トシテ發セラル場合有線系ニ依ル

223 0830
223
223

- (一) 信號(電話)命令ヲ主トシ水上部隊ニ通達スベキ無線(電令)ヲ次等視サル傾向ナシトセス
- (二) 前號ニ關聯對謀防衛上戰術暗使用ヲ制限サル爲通達ニ貴消時ヲ要セル事例アリ
- (三) 綜合敵情戰果速報、殘存敵兵力情況判斷決心等陸上ニ於ケル綜合水上ニ於ケルヨリ遙ニ容易迅速且通確ナルベキヲ以テ之ガ水上部隊ヘ速達ハ緊要ナリ
- (四) 今次作戰ニ於ケル天候敵情速報等極メテ有効ナリ
- (五) 對敵通信ハ計畫訓練實施及兵器改善共ニ更ニ大規模ニ推進ノ要アリ
- (六) 航空攻撃水上水中攻撃共ニ特攻化ノ令以後作戰指導ノ根柢ヲ成スベキ戰果確認(推定)上敵信(電話)傍受ハ極メテ有用ニシテ水戰司令部附員ニ名(特話)少尉三名

(下重)

(特信) 取得セル情况ノミテモ我攻撃成果及敵企図一部ヲ窺知シ得タリ

(二) 四月七日敵飛行艇ノ觸接ヲ受ケタル際大和直チニ妨信セルモ矢矧ニテ鑑査セルトコ若干周波數差アリ妨信初期ニ於テ其ノ効少カリキ

事前戰務図演ニ於テ矢矧妨信準備ヲ行ハシタル際電波調定ニ十分弱ヲ要セリ

本作戰通信計画ニ於テ「妨信ハF170指導特令ヨリ各戰隊旗艦ヲシテ實施セシムルモトス」

各隊(艇)ハ情况特ニ有効ニシテ且緊急ヲ要スト認メタ場合ハ獨斷之ヲ實施スルヲ得此場合速カニ報告ヲ要スト是ヲレアリタルモ實施ニ於テハ機ヲ逸シタリ

(三) 雪風裝備ノ中方位測定機ハ敵潛電波ノ測定ハ面ニ及ビ

い 應急通信

有効ナリシモ大和裝備ノモハ使用スルニ至ラズ朝霜裝備ハモハ結線完了後殆ド調整ノ餘裕ナクシテ出撃セシメ利用シ得ザリキ
尚雪風ニ於テモ測角側ニ轉換スルヤ感ニ弱至三ノ低下アリ受信可能ニテ測角不能ナル場合尠カラズ之ニ比シ三型探知機(糧波送探)ハ有効ニ使用セリ

(一) 大和通信力ハ豫想外ニ脆弱ナリキ其ノ實情原因調査ニ由ナキモ情況左ノ通

(1) 大和 戦斗開始一三三〇後記録上ニテハ約一〇分ニテ艦隊内電話ニ出系ズ

當時ノ配備 中波ニ波超短波一機

(2) 一三二五初霜ニ対シ通信代行ヲ下令初霜代行ニテ178戦斗速報第一號(發令時刻一三五〇)ヲ發信一六五五依通了解セリ

(二) 冬月(ロ)ト彈直撃ニ其(他)被銃撃(雪風初霜(何モ至近彈)
 八何モ空中線線ニ異狀ナク涼月八前甲板被彈大破ニ依リ
 空中線全部落下セリ

(三) 涼月八前部電信室火災時暗號書於十四ヲ取出シ得タルノミ
 ナリ爲後部電信室ニテ受信モ電報モ翻譯シ得ザリシモアリ
 タリ應急準備上人員暗號書ノ全散配備ヲ適切ニ要アリ
 (二) 駆逐艦通信長職務執行者(航海長)及乗組通信士通信
 指揮能力ハ大ナルヲ期シ得ズ之ガ教育訓練ノ要アル勿論ナルモ之ニ
 全幅倚存シ得ザル莫情並ニ今後水上部隊ノ主兵ガ駆逐艦以下ト
 ナレル趨勢ニ着目取扱調整容易ニシテ信賴度大ナル兵器ノ整備
 及簡單ニシテ確實ナル通信計畫策定並ニ之ニ基テ反復演練
 ヲ以テ莫効ヲ期スルヲ要ス

(一) 今次战斗中自艇發信ガ如何ナル電波ニテ送信サレタルヤ知ラサル

通信長 通信士アリ

(一) 自航後部電信室ニ非、電話ノ装備シアルヲ知ラザリシ通信士アリ
 (二) 空間錯綜ニ場合先順位ヲ争ヒ交信員ガ独断指定「至急」ト
 「作緊」トセル航アリ

(四) 電話不達トナル際TM軽便電信機ノ使用ニ着意セザリシ通信長
 アリ

五、運動

(一) 雷撃手ニ対シテハ雷撃手機ヲ避ケザル間ニ合ス而シテ雷撃手機ノ
 観破ニガ第一義ナリ

(四) 雷爆同時來襲ニ先ズ雷撃手機ヲ避ケルヲ要ス雷撃手ハ一發ニテ
 致命傷トシテ爆撃手機ハ命中率少ナリ被害亦少シ

(ハ) 見張員操航者ト操航員ノ連繫ハ最モ重要ナリ之ヲ大ニニ
 訓練シテ必要アリト共ニ三者間ノ通信裝置置ハ間然ナカラシム

0435

2251

ル如ク工夫施設ノ要アリ

六防禦

- (イ) 涼月型ニ於テハ中部ニ吐水口少シ増設ノ要アリ
- (ロ) ガソリンポンプハ氯化炭ノ簡單ナル改造ニ依リ代燃ニテ作動シ得(矢矧)
- (ハ) 豫備臭雷格納庫及發射管ニ付「コモントレ」ヲ施シアリアル處發射管ニ三發臭雷格納所ニセ發ノ機銃彈命中セルモ何レモ反撥マリ極メテ有効ナルモノト認ム (涼月)
- (ニ) 戦闘服裝ハ上衣ヲ「スポン」ニ包ミ置クヲ要ス准士官以上ハ雨衣ヲ着用スルヲ可トス
- (ホ) 無電池電話有効ニ使用セリ (磯風)
- (ヘ) 可燃物ヲ極力陸揚セル爲火災起リ難カリキ (矢矧磯風)
- (ト) 被害時ノ探知ハ仲々困難ナリヨク研究訓練シオクヲ要ス
- 七機関
- (カ) 艦隊速力ニ十二節巡航運転中朝霜ハ會敵約二時間前ヨリ艦巡航タイ

ビシ減速装置溫度過昇シ(溫度不明)巡航「タービン」ヲ離脱セントセシニ
 離脱ニ約五時間ヲ要スル應急作業トナリ(同艦ヨリノ信號報告ニ依ル)解列シ
 艦隊ノ視界内続行中對空戦闘トナリ遂ニ行方不明トナレリ

同艦、前號作戦以來巡航「タービン」減速装置ノ音響大ナリシ爲今次出
 撃前兵工廠ニ於テ減速装置ノ中心検査ニ片當リ部分ノ摺合ヲ施行シ
 今回故障ノ原因ハ敍上ノ工廠修理ノ不具合ニ依リ減速装置焼損シ
 ルガ如ク信號報告アリタルモ左ノ諸項ヨリ判断シ嵌脱接手部ノ故障ト認ムル
 (一)既ニ出撃後約一昼夜ノ巡航運転ヲナシ減速装置ノ摺合良好ナリシト若溫度
 上昇シタルトセバ既ニ主運転ナルベシ

(二)同部軸受溫度上昇ニ関スル來歴ナシ(現凍月機関長ノ言ニ依ル)

(三)兵廠ノ修理ハ順調ニ進捗ス

(四)嵌脱接手部故障トスレバ巡航ノ離脱作業ニ約五時間ヲ要ス

(五)減速装置焼損セバ直ニ巡航ヲ離脱シ得ル筈ナルニ離脱出來ザリシト

尚同艦准士官以上ノ出撃前、機関整備ニ対スル熱意ハ司令部、助言ニ
 対シ極メテ低調ニシテ工廠ニ全中依存シ居リ、今面ノ機関故障ノ原因ハ自
 己ト生死ヲ共ニスル機関ニ対スル整理操縦ノ不熱意ニ依ル

トコロアルニアサレサルカ

(四) 運転幹部ハ機関ノ經濟運転ガ即機関効力ノ最大發揮ニアルヲ銘肝
 シ整理操縦ニ邁進スルヲ要ス

(五) 會敵ヲ豫期スル場合ニ於テモ中速力以下ノ航行ニアリテハ巡航運転且
 探信ヲ妨害セザル如ク使用罐ヲ選定スルヲ要アリ

(六) 大豆油ハ冬月ノ使用実績(横須賀機関學校ニ報告済)ニ依テ機関教範
 所定汽缸諸元ニテ使用シ差支ナシ

(七) 左記ノ場合機関員ハ出來得ル限り艦内各部ニ分散ヲ要ス

(八) 碇泊中配置ニ就ク場合(機関室ハ一直配員ニテ可)

(九) 總員退去アリタル場合

2271

ハ將來^{燃焼}眞水海水管ハ出來得ル限リ室内中央部且下層ニ配列シ要アリ
 ロット彈(冬月)機銃彈(大別)至近彈々元(大別)ニ依ル諸管系ノ
 損傷中致命的なモノ相當數アリ

ハ臨戰準備

ハ出撃前不用物件ハ全部陸揚ゲスルヲ要ス尚徹底シ得ザル處アリタリ
 ハ乗員履歷考課表總員名簿等全部陸揚ゲシ置クヲ可トス
 ハ總員名簿ハ生年月日ヲ附シ置クヲ要ス

九医务

ハ一號綑帶具ハ各人直接身ニ着ケ携行スルヲ可トス
 ハ止血棒ハ其ノ使用法ニ注意シ要アリ

ハ寧口員傷部壓迫止血ニ徹底スルヲ可トス

ハ水中爆症ニ名アリタリ水中爆症ハ腹巻ハ有効ナリ

ハ救難

(1) 溺者、風上側ニテ艦ヲ停止スルヲ可トス

(2) 溺者ノ救助ニ釣床其ノ儘両端ヲ把リテ外懸吊ス法ハ有効ナリ

(3) 浮泛物ヲ纏メ筏作製ヲ企図スル際コイル小索ハ極テ有用ナリ入水時身ニ着ケアルヲ可トス

(4) 手拭手巾等ハ泛水中眼ヲ拭ヒ重油ニ依ル刺戟ヲ弱ムルニ有効ナリ

(5) 泛水中極力皮膚ノ直接海水ト接スルヲ防グヲ要ス殊ニ腹部ハ然リ腹巻ハ有効ナリ

(6) 既往ノ訓ナルモ泛水時気力ノ充實ハ絶対必要ナルモ過度ノ發聲運動ハ疲勞ヲ促進シ耐ス力ヲ失ス救助直前花ヲ密シ泳ガ着キントシテ舷側至近ニシテ沈没モ生ニアラナリ

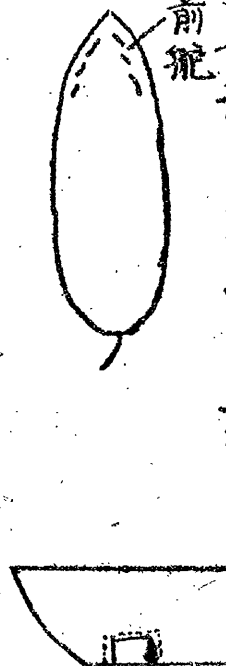
(7) 泛水者ハ極力集結シアルヲ可トス士氣ヲ維持シ被救助ヲ容易ナラシムル所ナリ

二、其ノ他

の現在、艦橋、防空指揮所施設不良、操艦、戦斗指揮見張等全部
防空指揮所ヲ行、如、改造ヲ要ス飛行機ノ操縦席、如、風房
式トスヲ可トス

④水上艦艇、旋回圈ヲ極小ナラシムル爲速ニ前舵ヲ附スル必要アリ

前舵



⑤前部揚錨機ヲ使用シテ出入可能ナル如ク計画ス

(終)

229

0442

附令

昭和十八年機密遊撃部隊命令第十三號ハ
之ヲ廢止ス

(終)

第一遊撃部隊命令

第一遊撃部隊電波哨戒準則別紙通定メ之ヲ試行ス

機密第一遊撃部隊命令第十三號

昭和二十年三月二十日旗艦大和

第一遊撃部隊指揮官 伊藤整一

機密第一遊撃部隊命令第八號別紙

第一遊撃部隊電波哨戒準則

一 第一遊撃部隊ニ於ケル電波哨戒ハ聯合艦隊電波哨戒

準則ニ基キ本準則ニ依リテ行フモノトス

二 電波測定の各艦單獨實施シ電波哨戒ハ概ネ信ヲ

通達距離内ハ集團行動スル部隊毎ニ統一實施スルヲ

例トス

三、電探電波管制

(1) 管制標準

管制種別	同略稱	適用スベキ時機	管制要領
探信戦斗管制	タセ方	最嚴重ナル警告戒ヲ爲スベキ場合	電波ノ輻射ヲ禁ズ

220 230 229

電波哨戒實施要領

電探電波管制ハ所在最高指揮官之ヲ令スルモノトス
但シ緊急場合各級指揮官適宜之ヲ變更スルコトヲ得

配備 種別	兵器使用法		探信 管制	記 事
	電 探	電 探		
對潛警戒 配備 (セケハ)	時隔探信 聯合分擔	常時探信 全周	探信探知共特令ヲ受ケル 間、間、視界上五軒以下 場合、實施スルモノトス	
對空警戒 配備 (クケハ)	常時探信 全周	常時探信 全周	警戒管制	

探信警戒管制 タケル	警戒、探信ノ要 ニル場合
警戒ノ要ル場合	常時探信ヲ行フコトヲ得

0445

2301

対潜緊急 配 備 (セキシハ)	常時探信 聯合分擔	常時探信 夜(特令) 時隔探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周
対空緊急 配 備 (クキンセケハ)	常時探信 聯合分擔	常時探信 夜(特令) 時隔探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周
対空緊急 配 備 (セキシハ)	常時探信 聯合分擔	常時探信 夜(特令) 時隔探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周
対空緊急 配 備 (クキンセケハ)	常時探信 聯合分擔	常時探信 夜(特令) 時隔探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周
対空緊急 配 備 (セキシハ)	常時探信 聯合分擔	常時探信 夜(特令) 時隔探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周
対空緊急 配 備 (クキンセケハ)	常時探信 聯合分擔	常時探信 夜(特令) 時隔探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周
対空緊急 配 備 (セキシハ)	常時探信 聯合分擔	常時探信 夜(特令) 時隔探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周
対空緊急 配 備 (クキンセケハ)	常時探信 聯合分擔	常時探信 夜(特令) 時隔探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周	常時探信 ニ全周

兵器使用法欄各項目、夫々左記ヲ示ス

考 備

電探欄 一探信實施時間 二探信区域
探知機欄 一探知實施時間 二探知周波数範圍

時隔探信法

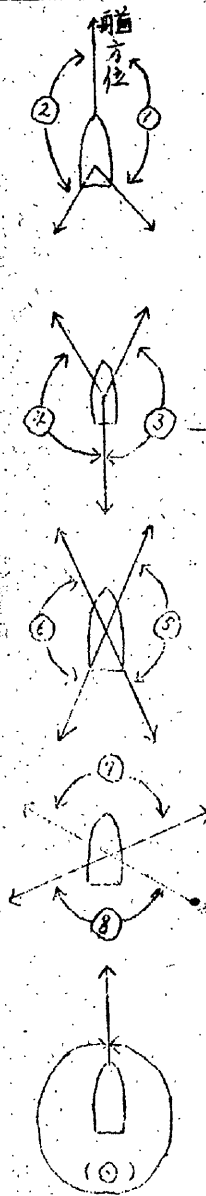
特令ナケル毎時、〇分ヨリ時隔一〇分ニテ毎時隔、始メ
分擔区域ヲ一往復スルモトス

三探信区域分擔

一探信区域分擔ハ各敵艦航行序列ニ應ジ其ノ都度

特令ス

一探信区域ヲ分擔セシム場合ハ一〇度宛ニ区分スルヲ例トシ
区域表示番号ヲ左ノ通り定ム



四當直法

(1) 當直割別令入

(2) 探知當直ハ現探信當直ノ次直ト入

五本項ニ於テ晝間ハ日出ニ十分前ヨリ日没ニ十分後迄
夜間ハ日没時ヨリ日出時迄ヲ謂フ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.iacar.go.jp/>

0448

231

232

敵 潜 ヲ 発 見 合	兆 アル 場 合	敵 潜 出 現 ノ
セ キ ン ハ		
セ キ ン ク ハ		
ク セ キ ン ハ		

(終)

2-1860
233

932

機密第一遊撃部隊命令作第二號

昭和二十年三月二十六日

第一遊撃部隊指揮官 伊藤整一

第一遊撃部隊命令

第一遊撃部隊天一號作戰通信要領ヲ別冊ノ
通定ム

(終)

機密第一遊撃部隊命令作第二號別冊

第一遊撃部隊天一號作戰通信ハ左ノ外聯合艦隊通信規程
第一遊撃部隊無線通信規程ニ依ル

一、一般方針

(イ) 晝戰、夜戰、艦船通信ヲ第一義トシ特ニ戰術通信ノ速達ニ
留意ス

(ロ) 基地航空部隊トノ協同ヲ特ニ重視ス

(ハ) 戰術場面ニ於ケル對敵通信(通信謀報、妨信、偽交信)ヲ
重視ス

(ニ) 應急通信ヲ適切ニ強靱ナル通信力ノ維持ニ努ム

(ホ) 通信防衛ヲ嚴ニシ企圖ノ秘匿ニ努ム

二、通信配備並ニ通信實施要領

(イ) 艦船通信

0450

233

233 4

234

一般通信	警報通信	種別
一ツハ	三ツハ	配備
ソコ一	ソコ一	組波
近波超短	長波遠中波	波長
常用 三六〇 補用 三六七 夜間 (五三三)	(三二〇) (五三三)	電波(番號)
一 出撃後各艦配員 二 轉換要領ハ無線通信規程所定 三 會敵後(潛水艦及大型機場合ヲ除ク)		
一 特令ニ依リ各艦配員 二 但シ長波通達圈ヲ分離行動中ノ艦船ハ令ナシテ中電波ニ配員ス 三 重要作戦通信ニ使用ス 四 水上部隊晝(夜)戰ニ於テ重要通信ハ一般短波ト併用ス 五 補用中波ハ二式又ハ一式中五號ニ依ル		
記 事		

	三 ニ ツ ハ	
	ソ コ 一	
	波 短	(駐) 波
	ハ ニ 一 〇 (カ ユ 五)	常用 要 ス テ 五 補 用 要 ス テ 五
一時令ニ依リ使用ス ニ會敵後(潜水艦及大型機ヲ除ク) 令ナクシテ配員ス	三水上部隊晝夜戰ニ於テ重要通 信ニ主用ス	令ナクシテ「四ツハ」トス 四水上部隊晝夜戰ニ於テ「四ツハ」 使用場合各驅逐艦ハ中波ヲ待受ルモトス 各艦常時配員 長波圏外(ニ)ニテハ離行動スル艦 船通信ハ通信隊經由ニ依ル 直ニ急ヲ要スル場合ハ本電波ニ依リ直 接通信ス

2950

2334

234

235

應急通信	旗艦 (通信) 通話
〇 ツ ハ	ニ 三 ツ ハ
	ソ コ ー
超短波	(用主話電) 波中近
四二七五〇 (スチ四二)	補用 二九八五 (五五七五) 二〇二五 (エモ)
特令ニ依リ配員ス	三ノバニ配員 各艦待受 四ノ上部隊晝(夜)戦於テ「三ツハ」及「四ツハ」併用場合 「四ツハ」「三ツハ」ヲ主用「四ツハ」(超短波中波ノ順)補用シ各「四ツハ」(中波)ヲ主用「四ツハ」(超短波)「三ツハ」ノ順ニ補用ス (四)各司令艦逐艦(單獨驅逐艦ハ)「三ツハ」ヲ待受ルモノトス

(土)

部隊外通信

備考	補用電波ノ使用ハ特令ス
四ニツハ	ソコ一
波短	四七五五
（五二七）	ニ状況ニ依リ晝夜間併用ス

(1)

P/YBハ第一第六特定通信系ニ加入ス

(2)

對 P/YB通信

(a)

P/YBハ P/YB放送ヲ待受所第一第二基地通信系ニ加入ス

入ス

(b)

對 P/YB通信ハ第六特定通信系第一（第二）基地通信系甲種艦船一般短波ニヨリ直接通信ス

(3)

右以外一般通信ハ艦所通信系若ハ共用艦船短波及甲種艦船一般短波（状況ニヨリ甲種艦船旗艦短波併用）

ヨリ通信隊ヲ經由實施ス
但シ各師ハ所要ニ應ジ直接通信ス
(4) 他部隊通信待受標準

通信種別	待受標準
第一第六特定通信系	P/YB 常時待受
P/YB 放送系	P/YB 常時待受各艦隊指揮官所定
第一第二基地通信系	P/YB 常時待受各艦隊指揮官所定
佐鎮部隊通信系	P/YB 常時待受各艦隊指揮官所定
基地航空部隊	P/YB 常時待受各艦隊指揮官所定
航空機通信	P/YB 常時待受各艦隊指揮官所定
東通第一放送	P/YB 常時待受各艦隊指揮官所定
東通第二放送	P/YB 常時待受各艦隊指揮官所定
東通第三放送	P/YB 常時待受各艦隊指揮官所定

佐通放送	呉通放送	高通放送	三一通放送	四通放送	大湊通放送	海上護衛関係通信系
各艦(隊)指揮官所定		時令ニ依ル				

(甲) 航空機通信

(一) 甲種 六八八の(クヨ六五)補用七七五の(クヨ四三)
 索敵偵察 觸接用
 但し特令シ夜間ハ該中波三四四の(クヨ六五)
 (補用三八七五(ケリ四三))ヲ使用スルコトアリ
 甲種 三六七(イミニ七)誘導専用

三 對敵通信

(1) 通信諜報

(一) 通信諜報ハ主トシテ之ニ任ジ出撃手迄ハ一般情報ノ

獲得出撃後ハ右ノ外敵潜水艦哨戒機ノ動靜敵機動

部隊迄ニ攻畧部隊ノ所在全圖動靜判知ニ努ム

(二) 各隊(艦)ハ自衛上必要ナル通信諜報ニ努メ敵信ヲ捕

捉セバ速ニ之ヲ報告スル共ニ妨信準備ヲ完成シ置クモトス

(2) 通信攻撃

(一) 通信攻撃手ハ妨信ヲ主トシ情況ヨリ偽交信(偽電)ヲ實施ス

(二) 妨信全ノ指導特令ヨリ各戰隊旗艦ヲシテ實施セシムトス

(三) 偽交信(偽電)ハ主ノ之ヲ實施ス

(四) 各隊艦ハ情況判ニ有効ニシテ且緊急ヲ要スト認メタル場

合ハ独断之ヲ實施スル事ヲ得此場合速ニ報告ヲ要ス

(五) 指導連絡通信系ヲ「ニッパトス

四 應急通信 別紙第一

五 地上表示法

(イ) 一般戦斗

「サケニ

(ロ) 夜戦

(一) 航空機

第二地上表示法

(二) 艦船

第四地上表示法

(三) 基地

特令

六 暗號書

現用

七 通信防衛

三種電波管制

(終)

0458

2388

238

機密第一遊撃手部隊命令作第二號別冊紙第一

天一號作戰中第一遊撃手部隊旗艦通信不能トナル場合
 應急通信實施要領左ノ通定ム
 一通信代行艦並ニ代行順序

二特定通信畧語

本畧語ハ信號及無線(電信及電話)ニ使用ス

信	文	略語(隱語)
本艦通信代行暫送信電波	ソノソノ	句点
連絡電波	ソノソノ	(四七ヤ)
本艦受信不能電波	ソノソノ	子テコ子テコ
信號中繼セヨ	ソノソノ	(四七ユ)

備考

- 一 周波数若ハ電波番號ヲ示ス
 ニ 電波ヲ附セザル場合ハ送(受)信全部ヲ示ス
 三 連絡電波ヲ附セザル場合ハ第三項所定電波
 ニ依ルモノトス

三 且 YB 及代行艦間ノ連絡通信(特令ナキ場合)
 (イ) 無線通信

○ ツ ハ

(ロ) 無線通信不能ノ場合 視覚通信
 四 送信(話)代行艦ハ YB ノ呼出符號(語)ヲ使用ス

(終)

軍機

別紙第三

機密第一遊撃部隊命令作第三號
昭和二十年四月六日 旗艦大和

第一遊撃部隊指揮官 伊藤整一

第一遊撃部隊命令

238 第一遊撃部隊ハ聯合艦隊電令作第六・七號
ニ基キ海上特攻隊トシテ友軍航空部隊及

239 沖繩方面所在部隊ト協力シヨ日(四月八日)
黎明時沖繩西方海面ニ突入敵水上艦艇ヲ

239

1940

備考 特令アル迄本軍隊區分トス	A			區分 指揮官兵 力 主要任務
	前掃湯隊	警戒隊	主隊	
	B			
	C			
	D			
	E			
	F			
	G			
	H			
	I			
	J			
	K			
	L			
	M			
	N			
	O			
	P			
	Q			
	R			
	S			
	T			
	U			
	V			
	W			
	X			
	Y			
	Z			

輸送船團ヲ攻撃撃滅セントス
 之が爲執ルベキ作戰ハ左ノ外第一遊撃部隊
 天一號作戰要領ニ依ル
 一軍隊區分
 一第一軍隊區分

239 0462

240

239

(四) 第二軍隊區分

區分	Y B		指揮官	兵力	主要任務
	第一部隊 (1Ng)	第二部隊 (2Ng)			
	P 2F				
	A 2sd				
	2sd				
	大和 41dg				
	敵水上艦艇 二輸送船團 撃滅				

備考 本軍隊區分ハ敵水上部隊ト晝夜戦ヲ豫
期スル場合ニ適用ス

(一) 進撃手接敵要領
第一遊撃部隊ハ2日一ハ豊後水道出撃
2日夜間大隅海峡ヲ通過シ南西諸島列

島線西方ヲ迂回進撃
西方海面ニ突入ス

前路掃蕩隊ハ大隅海峡通過後令
ニ依リ解列内海西部ニ飯投ス
(四)大隅海峡通過迄ハ主トシテ對潛警戒
戒ヲ爾後對潛對空警戒ヲ嚴ニス

(A) 水上偵察機

(一)司令部水偵ハ2日及1日佐伯指
宿ヲ基地トシテ艦隊ノ對潛警戒ヲ
實施ス
(二)天引水偵ハ1日令ニ依リ發艦主ト
シテ沖繩島西方海面ノ偵察ヲ實施ス

0464
240
242

248

三戰鬪要領

晝夜戦ヲ問ハズ全軍結束急速敵ニ
肉迫必死必殺特攻攻撃ヲ本旨トシ戦
鬪要領ハ第一遊撃部隊戦策ニ依

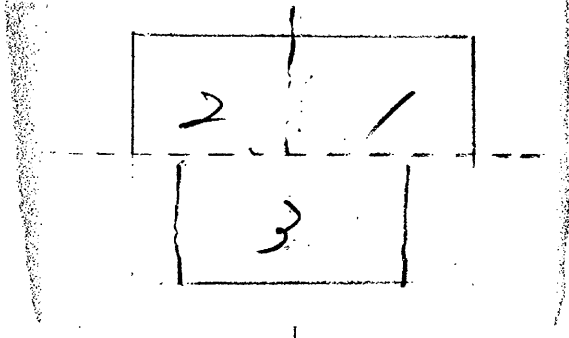
四進撃航路

別圖ノ通豫定ス

特令ニ依ルバ第二航路トス

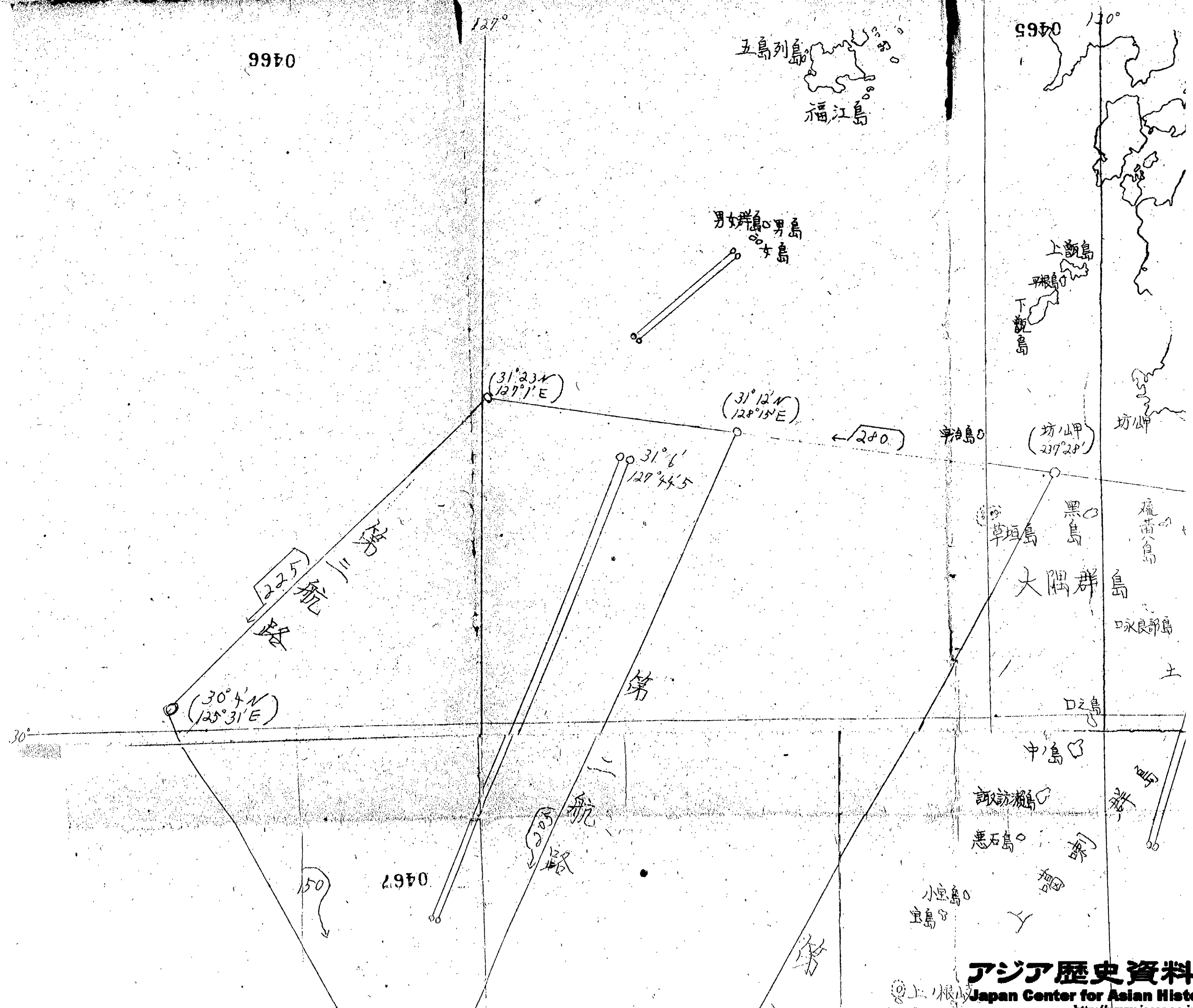
(終)

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 68年 6月18日 主務者又は 撮影立会者 金沢悦夫 (印)	

機密第一遊擊部隊命令作第三號別圖
海圖第二。號卜同尺度





0466

0465

0467

243 8960

242

第一遊撃部隊機密第一號

昭和二十年四月六日

第一號作戰海上特攻部隊作戰ニ関スル參謀長口達書

第二艦隊司令部

2431
大ニ號作戰海上特攻部隊作戰ニ関スル參謀長口達覺

一作戰一般

(1) 沖繩ニ來攻セル敵攻略部隊ニ對シ我航空部隊ノ總攻撃並ニ
三十二軍ノ攻撃ニ策應シ海上特攻部隊トシ突入作戰ヲ實施スル
事トナリマシタ

戦局重大ナルハ特ニ速ルマデモナク國家存亡ノ岐路ニアリ此ノ際海上
部隊ノ最後ノ花形トシテ多年苦心演練シタル腕ヲ發揮シ作レシ
トハ武人トシテノ本懐之ニ過グルモノハアリマセン此ノ上六彈丸ノ續
ク限り最後迄一騎當千獅子奮迅ノ働キヲナシ敵ノ一艦一艇一艇三
ルマデ之ヲ撃滅シ戰勢ヲ一舉ニ挽回シ皇恩ノ萬分ノ一ニ報ヒタイトス
ジマス

海上特攻部隊ト命名サレタル所以モ此處ニアル事ト存ジマス

(2) 今回ノ作戰ニ於テハ基地航空部隊ノ必殺攻撃ナルモ敵兵力ハ

セシ
 尨大ナルヲ以テ尙優勢ナル敵ト會敵スル事ヲ予期シナクテハナリマ

優勢ナル敵ニ對シテハ先ヅ夜戰ニ依ルヲ最良トスルモ近時電測兵器
 ノ発達ト共ニ敵ノ夜戰モ悔ルベカラザルモノアリ夜戰ニ於テハ分散突入
 攻撃ノ集中一部ヲ以テスル牽制煙幕ノ利用誘致戰ニ於ケルニ
 段斜進ノ利用等機ニ應ジ實施シ得ル様予メ研究準備シ腹案
 ラ定メ置カレ度尙決定的打撃ヲハ夜戰ニ繼グ畫戰ニ於テ實施スル必
 要アリ畫戰ニ於テハ主隊ヲ中心トスル集團内迫攻撃ニ依ル必要ガア
 リマス

(ハ)從來兎角最初ノ計畫ニ捉ハレ情況ノ變化ニ即應シ獨斷專行ニ
 缺タル處ガアツタ様ニ見エマシタガ刻々變化スル實狀ニ即應シ命令指
 令等ヲ待タズ全般ノ作戰ヲ考ヘ最善ノ處置ニ缺ル事アリ様予メ
 腹案ヲ定メ置カレ度

二術科其ノ他ニ関シ

(1) 對空砲戰

一 對空砲戰能力向上ノ具體的施策ハ從來研究セラレアル處之ヲ々
部下ニ普及徹底シ生死ノ間之ヲ實行スル様指導セラレ度
二 從來ノ戰訓ニ鑑ミ敵機ノ來襲ニ際シテハ回避ハ當然行ハルヲ以テ
各對空射撃關係員ハ回避中充分射撃効果ヲ發揮シ得ル様工夫
スルト共ニ直衛配備ニアル駆逐艦ハ主力ノ掩護射撃ニ關シテ一段ト
工夫セラレ度

(2) 夜間砲戰

夜間ハ特ニ電測間接射撃ヲ理想トスルモ現状ヲ以テハ電測照明
射撃ニヨルノ他ナク尚敵ガ煙幕ヲ展張セル場合ニモ一應之ニ應ズル砲戰
ニ關シ腹案ト準備ヲ進メ置カレ度

(3) 對海戰闘

245

(ホ) 味方識別

ハレ從來ノ攻撃法ヲ誤ラザル様注意セラレ度

魚雷戦ハ突入作戰ニ於テ最モ效果ヲ期待スル處ニシテ魚雷ノ必殺的用法ヲ誤ラザル様特ニ水雷長ヲ監督サレ度且敵水上艦艇ニ對スル電測発射誘致戰煙幕利用中ニ於ケル二段斜進ノ活用ニ関シハ充分研究シ置カレ度但シ二段斜進ノ利用提

(ニ) 魚雷戦

(一) 航路ハ予定セララルモ敵情ハ変化ニヨリ咄嗟ニ變針又ハ回避スル場合通信速度不良ナルヲ以テ極力電話ヲ活用スル予定ナルモ哨信機ノ活用ニ関シテモ萬全ヲ期セラレ度

カレ度

ニ依リ常ニ變更セララルモト承知アリ度從來敵情

(一) 行動海面ハ敵潜水艦密集シアル狀況ニ鑑ミ各種情報見張ニ注意スルト共ニ咄嗟ノ處置遺憾ナキ様一層哨戒長ニ注意ヲ喚起シ置

行動海面ニ於テハ多数彼我飛行機出現スルヲ以テ味方識別ニ関
シテハ特ニ注意セラレ度味方機ノ発着ニ関シテハ極力各隊ニ通知スル
定ナリ尚夜戦ニ於テハ分離別動スル場合アルヲ以テ地味ニ艦位
ノ記入ヲ精確ニシ自己ノ位置針路速力通報ニ努メラレ度
(ハ)從來一般ニ報告通報漏レ多ク作戦戦闘指導不如意トナシ
アリ各級指揮官ニ於ケレテハ特ニ此ノ点留意アリ度 旗艦ヨリハ極
力敵情等ハ通報スル予定

(ハ)航海見張信號

(一)本行動中ハ接岸航路淺水艦伏在海面機雷敷設海面通
過視界不良等ヲ考フレバ相當困難ナル航海ナルヲ以テ艦隊
保持見張ニ関シテハ特ニ注意セラレ度 相當長期間夜間戦闘訓
練等ヲ行ハザリシ關係上見張能力低下ヲ予期セラルルヲ以テ哨
戒長哨戒長附ハ部下ヲ督勵シ自ラ見張ル意氣込ヲ以テ當レ度

245

(一) 待機中通信訓練ノ成果ニ鑑ミルモ信號費消時特ニ大ナリ信號員ヲ督勵シ且哨戒長(同附)ハ自ラ信號應答ヲ督促スル様心掛ケラレ度

(三) 爆撃回避運動中大和ノ速力低下施田性能ニ関シテ特ニ注意セラレ度

(子) 通信

一 艦隊通信ノ適否ハ作戰ノ成否ヲ左右スル重大事項ナル處今次YBハ急編成部隊ニシテ此ノ点懸念サルル處大ナリ各隊(艦)ハ嚴重ナル関心ヲ以テ最後迄教育訓練ニ努ムルト共ニ速ニ關係諸法ニ通曉シ通信實施ニ當リテハ幹部ノ積極的陣頭指揮ヨリ遺憾ナキヲ期セラレ度

(二) 今次作戰中飛行索敵殆ド之ヲ基地航空部隊ニ依存スルノ已ムナキ處敵情獲得ノ成否ハニ相互ノ通信連絡ノ適否ニ歸ス

- 水上部隊トシテハ基地航空部隊関係通信ノ全幅直接受信
ニ努ムル共ニ重要入手事項ハPVBニ速報サレ度
- (三) 接敵時飛行機ノ索敵觸接報告ハ戦闘中ノ指揮連絡並ニ諸般ノ通信職務ノ適否ハ戦闘ノ勝敗ヲ決スルコトナリ適切ナル報告通信兵器ノ整備通信艦内費消時ノ極限ニ特ニ留意シ不注意ノ錯誤等ニ依ル遲達誤報ノ絶無ヲ期セラレ度
- (四) 電波輻射防衛ニ関シテハ從來屢々注意ヲ喚起サレアル處ニシテ早期ニ我ガ企圖ヲ看破サルルガ如キ事ナキ様不必要ナル電波ノ輻射ハ一切之ヲ嚴禁スル如ク指導アリ度
- (五) 今次作戦中ハ電話ヲ極度ニ利用スル如ク計畫サレアリ之ヲ活用シ極力費消時ノ短縮ニ努ムル共ニ不時ノ指呼ニ即應スル如ク常ニ嚴重ナル待受ノ實施電波精度ノ保持ニ努メラレ度
- 特ニ戦闘中通信ノ適否ハ勝敗ヲ左右スルコト多シ常ニ瞬達ヲ目

途トシ最大能力ヲ發揮セシムル如ク通話、指揮當務者、指導監督ヲ適切ニサレ度

(六) 艦隊通信戰力、持續發揮ハ作戰成否ノ鍵錦ナリ基地航空部隊其他トノ協同上今次通信計畫複雜過重ナルハ己ムヲ得ガル處ニシテ戰機ニ應ジ通信配備ノ変更ヲ指導セラレルモ各隊(艦)ハ幹部、現場指揮ニ依リ配員要務並ニ被害時、應急通信關シ事前、準備ニ遺憾ナカラシムルト共ニ僚隊(艦)ノ通信中継代行等適時適切ナル協同ニ關シ特ニ留意指導サレ度

三要スルニ當隊ハ海上特攻隊トシテ任務ハ重大ナルモ艦隊ノ編成ハ變則ニシテ更ニ乘員、交代後訓練不充分ナル矣アリ
從ツテ各級指揮官ハ部下ノ能力ヲ充分ニ考ヘ其ノ指揮統制ニ關シ超人的努力ヲ以テ細心大膽事ニ當リ克ク個艦ノ

0477

247

戦闘力ヲ萬全ニ發揮セシム事ヲ望ム